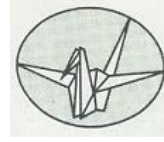




被団協



● 発行所
北海道被爆者協会
札幌市白石区平和通
17丁目北6-7

北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内
TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ <http://h-nomore-hibakusha.org/> メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

日本被団協65周年、中央相談事業講習会開かれる 被爆体験と被爆者運動の歴史を学ぶ

今年の中央相談事業講習会が札幌市被爆者の会秋の学習会を兼ねて、11月3日札幌市のクリスチャーセンターで開催されました。

今年が日本被団協結成65周年にあたることから、従来の被爆者相談とは趣を変え、木戸季市被団協事務局長の「被爆者からあなたに」と題する講演をオンラインで視聴しました(オンラインの設定には北海道生協連の全面的なご協力を得ました)。被爆者、二世、支援・協力者、学生たち37名が参加しました。



木戸さんは長崎で被爆したご自身の被爆体験を語ることから始めて、「私は4度被爆者になった」として、被団協の運動とご自身のかかわり、運動のいくつかのエピソードとその意義についてお話されました。

参加した被爆者も若年・幼少で被爆した人たちが多く、被爆二世や支援・協力者、学生を含めて、被爆の全体像やどのような運動で被爆者援護を充実させてきたか、国家補償を求めるのはなぜなのかなど、参加者もつとも知りたいと思っていたことに正面から応える、時宜に叶った講演でした。

また「被爆者の話を初めて聞いた」という学生、「高齢の被爆者がいまま頑張っている。私たちもまだまだ頑張らなければならない」という参加者など、非被爆者にとっても大変意義ある学習会でした。なお参加者にはこの春出版された『被爆者からあなたに』(岩波ブックレット)と中央相談所委員会の相談資料が配布されました。

※ブックレットは被爆者協会でご扱っています。希望の方ご連絡を。



どう継承するか熱心に意見交換

参加者はそのまま午後の被爆二世プラスの会の会員のつどいにも参加しました。最初に昨年亡くなった被団協の代表委員だった岩佐幹三さんの被爆体験の紙芝居『戦いはまだ終わらない』(金沢市の被爆者や有志による「平和の子ら」委員会制作)を正面スクリーンに映写し、

児童保育で読み聞かせを行ってきた小林春恵さんが話し手として読んでくれました。紙芝居は「戦いはまだ終わらない。世界中から核がきえるまで」という言葉でしめくくられています。

次いで二世プラスの会の1年間の活動と会計報告があり、その後、

こもごも感想を出し合い、被爆を直接知らない世代が被爆体験をどう受け取り、さらに戦争も原爆も知らない子どもたちにどう伝えていくかなどについて話し合いました。

その中で、昨年亡くなった道被爆者協会の副会長服部十郎さんの被爆体験が稚内の教員の平和教育の中で絵本になっていたことが紹介されました。また以前に絵本『ランタンと鶴』を会館に寄贈してくれた日蓮宗の本願人の方も参加しており、絵本のストーリーと制作意図について話されました。

そして道から提示のあった二世



健康記録簿については、親の被爆の状況も書いてこれを二見せると二世健診がスムーズに受けられるようにしたい、手帳の大きさは見開きタテに診断結果が貼れるような大きさがいいのではないかなどと話し合われました。これらの意見を受け、会では近く道に具体的な要望を出す予定です。